

# SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》  
平成 24年 7月  
(第27 ～30週)

発行年月日：平成24年(2012年) 8月16日  
発行 行：滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といい、届出により全国または滋賀県で発生している一～四類および五類感染症の発生状況を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 24年				平成 23年 <sup>*1</sup>		感染症 類型	疾 病 名	平成 24年				平成 23年 <sup>*1</sup>	
		1～6月		7月		1～12月				1～6月		7月		1～12月	
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	36	0	12	0	190
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	0	0	9
	ペスト	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	1		ブルセラ症	0	0	0	0	0	2
	結核	133	14,282	18	2,389	338	31,467		ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	3	0	0	0	6
	コレラ	0	2	0	1	0	12		マラリア	2	35	0	4	0	78
	細菌性赤痢	0	104	0	8	5	299		野兎病	0	0	0	0	0	0
三類	腸管出血性大腸菌感染症	16	914	9	453	71	3,938		ライム病	0	2	0	3	0	9
	腸チフス	0	14	0	0	0	21	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	パラチフス	0	10	0	0	0	23	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	
	四類	E型肝炎	0	72	0	9	0	61	類鼻疽	0	0	0	0	0	3
		ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	レジオネラ症	2	375	2	110	12	819
		A型肝炎	1	104	0	11	0	176	レプトスピラ症	0	5	0	3	0	27
		エキノコックス症	0	5	0	1	0	18	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0
黄熱		0	0	0	0	0	0	五類	アメーバ赤痢	7	406	1	81	2	814
オウム病		0	4	0	1	0	13		ウイルス性肝炎	0	110	0	16	1	249
オムスク出血熱		0	0	0	0	0	0		急性脳炎	3	218	0	19	1	259
回帰熱		0	0	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	6	0	0	0	8
キャサヌル森林病		0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	89	0	17	2	136
Q熱		0	0	0	0	0	1		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	2	143	1	10	2	198
狂犬病		0	0	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	4	662	0	120	6	1,523
コクシジオイデス症		0	1	0	0	0	2		ジアルジア症	1	28	0	3	1	68
サル痘		0	0	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	6	0	1	0	12
腎症候性出血熱		0	0	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	1
西部ウマ脳炎		0	0	0	0	0	0		梅毒	0	412	0	62	6	827
ダニ媒介脳炎		0	0	0	0	0	0		破傷風	0	47	0	13	1	114
炭疽		0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0
チクングニア熱 <sup>(*)</sup>		0	1	0	2	0	10		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	41	0	11	0	73
つつが虫病		1	174	0	18	1	461		風しん	5	492	7	425	2	374
デング熱		0	62	0	17	1	112	麻しん	1	169	0	32	1	443	
東部ウマ脳炎		0	0	0	0	0	0	動物の 感染症	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	0	0	0	0	72
（*）：感染症法の一部改正（平成23年2月1日施行）により、2月からの集計。ー：未集計							細菌性赤痢のサル		0	1	0	0	9	37	
*1 感染症発生動向調査事業年報暫定数（国立感染症研究所感染症情報センター、H24.3現在）							エキノコックス症の犬		0	0	0	0	0	0	

(\*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。一：未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、H24.3現在)

## 滋賀県における全数報告感染症の概要 (7月)

＜結核＞ 18名  
性別：男性 12名、女性 6名  
類型：患者 14名  
無症状病原体保有者 3名  
感染症死亡者の死体 1名  
病型：肺結核 6名  
その他の結核 9名  
無症状病原体保有者 3名

＜腸管出血性大腸菌感染症＞  
性別：男性 7名、女性 2名  
類型：患者 9名  
年齢：0～4歳 1名、10～19歳 2名  
20～29歳 3名、50～59歳 2名  
60歳以上 1名

血清型・毒素型：  
O157・VT1+VT2 4名  
O157・VT2 3名、O145・VT2 2名  
＜レジオネラ症＞ 男性 51歳、女性 69歳  
推定感染経路は水系感染1名および不明1名で、推定感染地域は2名とも日本国内です。

＜アメーバ赤痢＞ 男性 55歳  
推定感染経路は経口感染で、推定感染地域はタイです。また、病型は腸管アメーバ症です。

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞  
男性 74歳  
推定感染経路は創傷感染で、感染地域は日本国内です。

＜風しん＞  
性別：男性 6名、女性 1名  
年齢：20～29歳 1名、30～39歳 4名  
40～49歳 1名、50～59歳 1名

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 7月の概要

#### <インフルエンザ>

先月よりさらに減少し、第29週(7/16~7/22)に東近江保健所管内から報告があったのみで、他の保健所管内からの報告はありませんでした。

#### <小児科定点疾患>

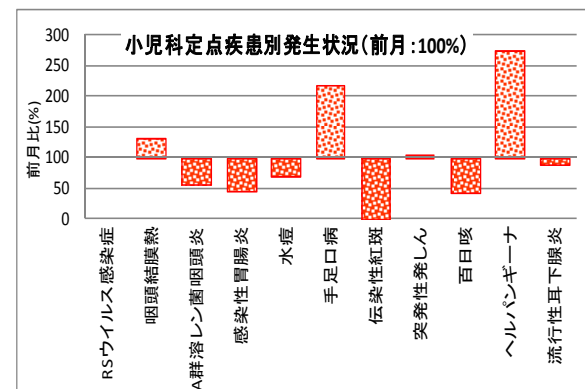
右記グラフ(小児科定点疾患別発生状況)に示すとおり、前月より増加した疾患は咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病、突発性発しんおよびヘルパンギーナで、減少した疾患はA群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘等でした。また、RSウイルス感染症は横ばいでした。各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照。

咽頭結膜熱(プール熱) ----- 大津市および高島保健所管内で比較的多くなっていました。第28週(7/9~7/15)に高島保健所管内で急増し、警報開始基準値(3.00)を超えましたが、次週には警報終息基準値(1.00)未満となりました。

感染性胃腸炎 ----- 県全体では先月より減少していましたが、昨年同時期と比較するやや多くなっていました。また、保健所管内別では長浜で比較的多くなっていました。

手足口病 ----- 高島保健所管内で多くなり、第29週(7/16~7/22)に警報開始基準値(5.00)を超えていました。

ヘルパンギーナ ----- 先月に引き続き長浜および高島保健所管内で警報終息基準値(2.00)を超えていました。特に高島保健所管内では大幅に超えていました。また、草津保健所管内では第30週(7/23~7/29)に警報開始基準値(6.00)となりました。



#### <眼科定点疾患><基幹定点疾患>

眼科定点疾患である急性出血性結膜炎は先月と同様、大津市保健所管内からの報告が多くなっていました。流行性角結膜炎は先月の半減となっていました。甲賀および高島保健所管内からの報告がやや多くなっていました。基幹定点疾患であるマイコプラズマ肺炎は先月より増加し、彦根および長浜保健所管内からの報告がやや多くなっていました。マイコプラズマ肺炎の年次別発生状況は下記グラフのとおりです。また、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

#### <インフルエンザ(入院)>

インフルエンザサーベイランスにおけるインフルエンザの入院患者1名の届出がありました。また、全国における第27~30週の入院患者数は77名でした。

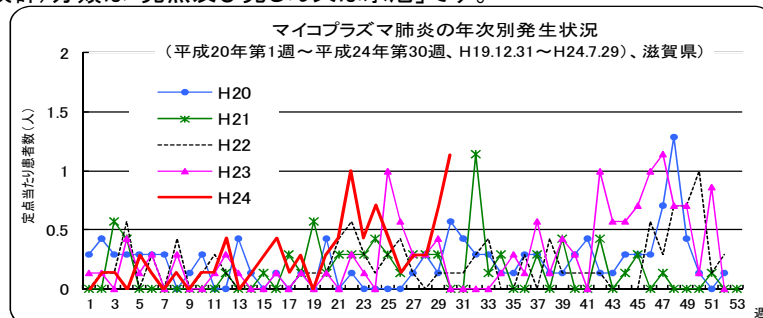
#### <疑似症定点からの報告>

大津市保健所管内の疑似症定点から6名の報告がありました。性別は男性5名、女性1名で、年齢は0歳1名、4~5歳5名です。また、疑似症(症候群)分類は「発熱及び発しん又は水泡」です。

### マイコプラズマ肺炎の発生状況

平成20~24年(第30週現在)における過去の同時期との発生状況と比較すると、平成24年が最も多く発生し、全国と同様の発生状況でした。

また、平成24年第1~30週現在の年齢群別の発生状況は、20~39歳からの報告もみられますが、0~9歳が全体の75%を占めていました。



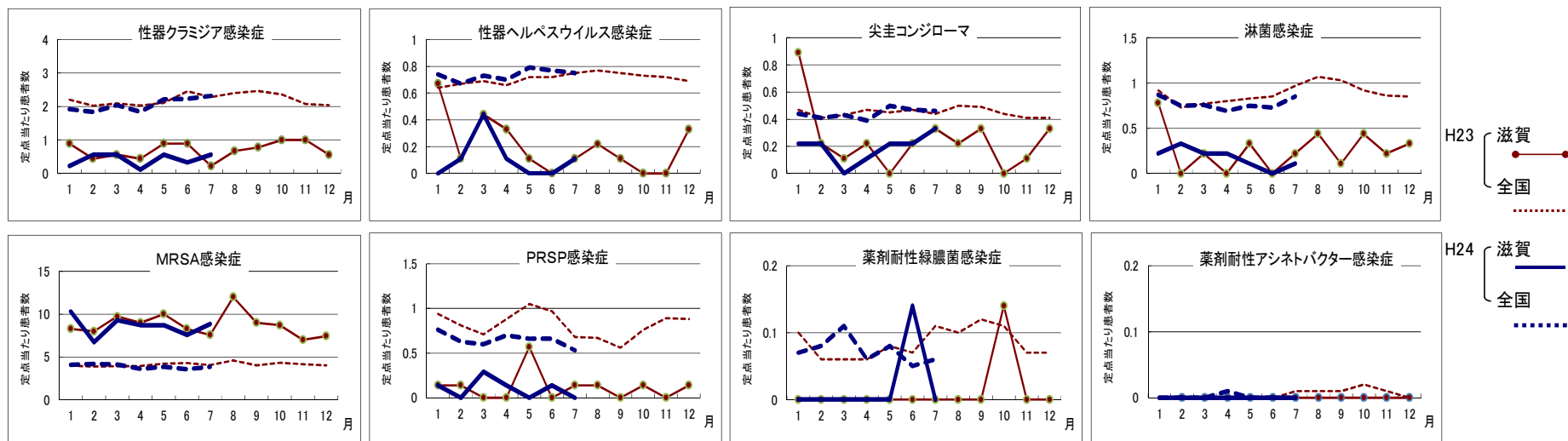
### <各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

### 3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 24年7月)

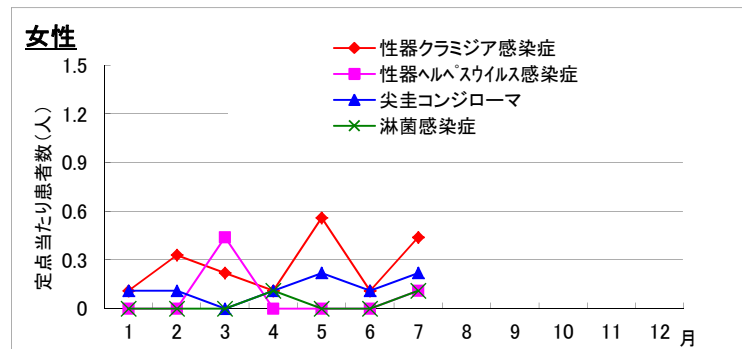
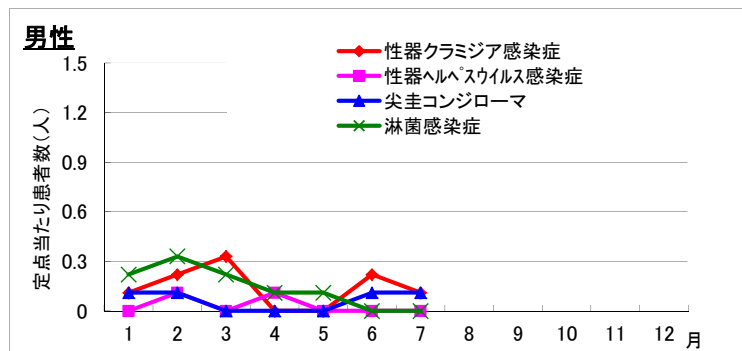
疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	2	5	5	1	5	3	5						26
	定点当たり患者数	0.22	0.56	0.56	0.11	0.56	0.33	0.56						2.90
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	0	1	4	1	0	0	1						7
	定点当たり患者数	0	0.11	0.44	0.11	0	0	0.11						0.77
尖圭コンジローマ	報告数	2	2	0	1	2	2	3						12
	定点当たり患者数	0.22	0.22	0	0.11	0.22	0.22	0.33						1.32
淋菌感染症	報告数	2	3	2	2	1	0	1						11
	定点当たり患者数	0.22	0.33	0.22	0.22	0.11	0	0.11						1.21
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	72	47	65	61	61	53	62						421
	定点当たり患者数	10.29	6.71	9.29	8.71	8.71	7.57	8.86						60.14
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	0	2	1	0	1	0						5
	定点当たり患者数	0.14	0	0.29	0.14	0	0.14	0						0.71
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	1	0						1
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0.14	0						0.14
薬剤耐性 アシネトバクター感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0						0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0						0



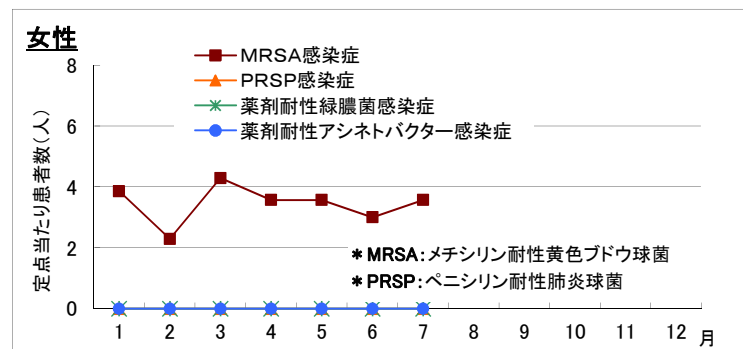
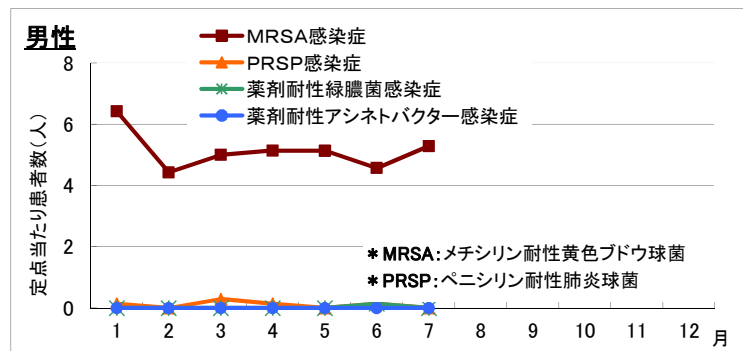
滋賀県における発生状況は上記に示すとおりです。先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症およびMRSA感染症で、減少した疾患はPRSP感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症でした。薬剤耐性アシネトバクター感染症については、先月と同様、報告はありませんでした。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

## 性感染症定点における疾患別発生状況 (H24.7)

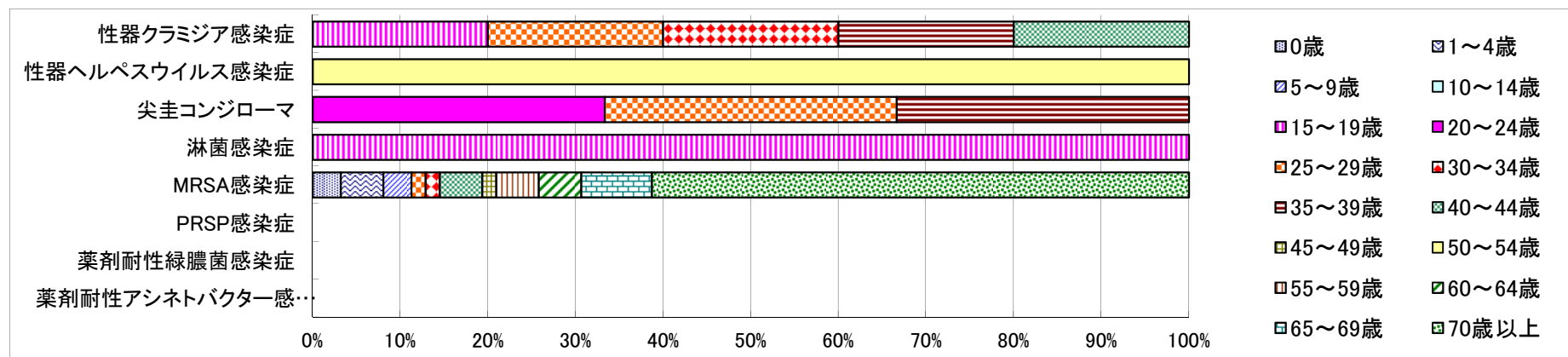


## 基幹定点における疾患別発生状況 (H24.7)

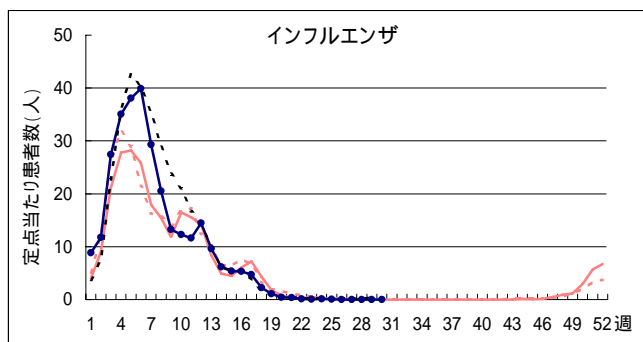


性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。先月と比較すると、性器クラミジア感染症は男性で減少し、女性で増加していました。尖圭コンジローマおよび淋菌感染症では、女性で増加していました。また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性感染症定点疾患の性器クラミジア感染症および淋菌感染症では、15～19歳からの報告がありました。

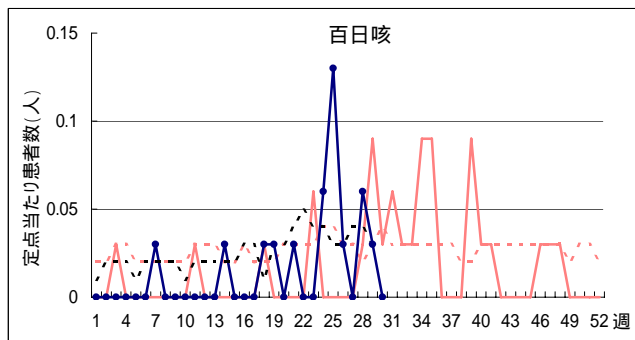
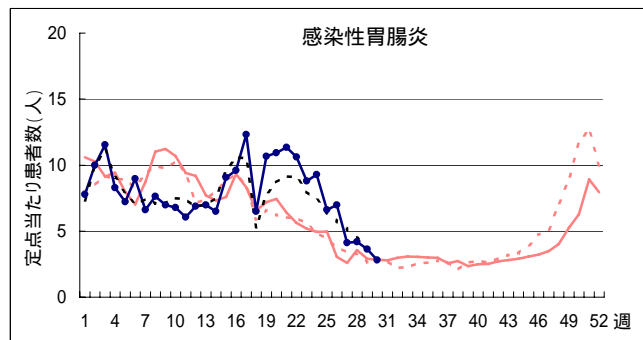
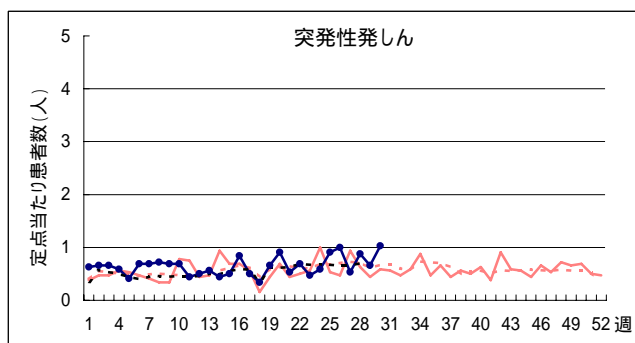
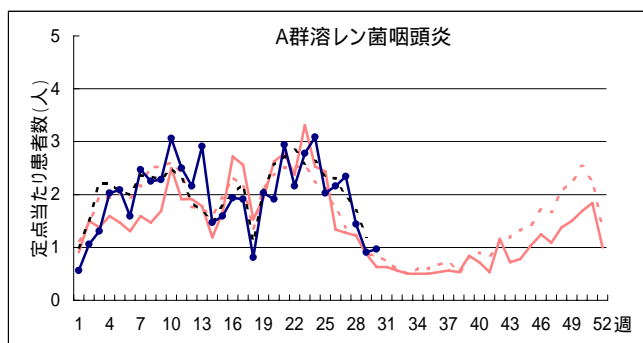
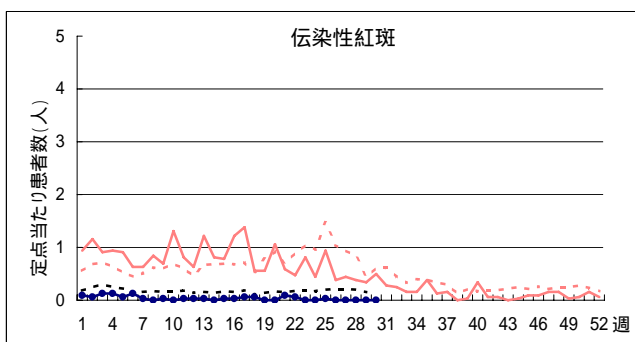
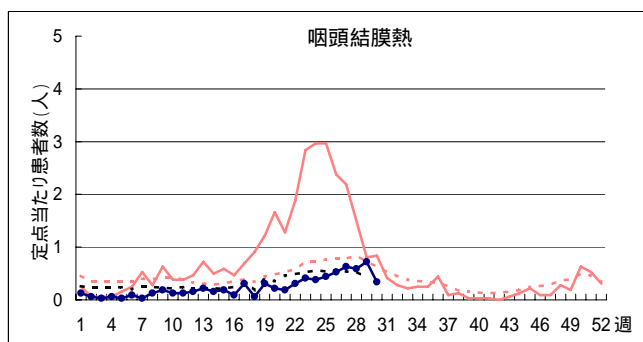
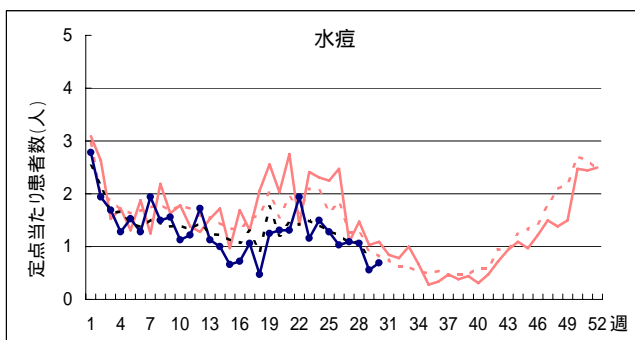
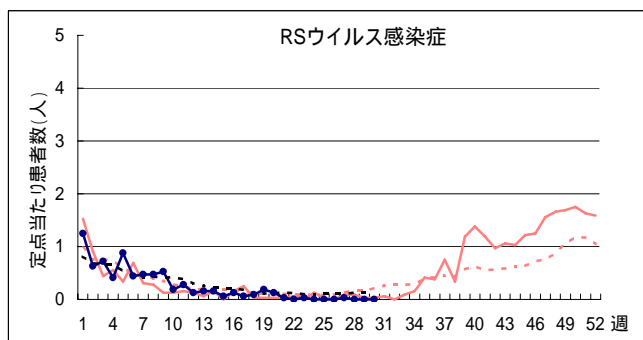
## 疾患別・年齢別発生状況(H24.7)



# 疾病別定点当たり患者数(平成24年第30週、H24.1.2～H24.7.29)



H23 { 滋賀 (solid red line)  
 全国 (dotted red line)  
 H24 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
 全国 (dotted blue line)



# 疾病別定点当たり患者数 (平成24年第30週、H24.1.2～H24.7.29)

H23 〔 滋賀 全国 〕 H24 〔 滋賀 全国 〕

